



心に響く道徳

心に届く道徳



はじめに

学校教育の基本は、子どもたちが自らを律しつつ他者と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性をはぐくむことにあります。しかし、近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化し、「集団や社会生活をおくるうえで必要な規範意識の欠如」、「友人や周りの人々と関わっていく人間関係力の低下」、また、「毎日の生活の中での基本的生活習慣の不十分さ」など、子どもの心や行動に関する課題が見られます。

道徳教育は、子どもたち一人一人が自分自身や未来をしっかりと見つめ、人間としてよりよく生きていくために必要不可欠な道徳性を主体的に身に付けていくことをねらいとし、「生きる力」の基盤となる「豊かな人間性」の育成を目指す中核的な教育です。新学習指導要領においても、心豊かにたくましく生きる子どもの育成をめざした道徳教育の重要性が、ますます強調されているところです。

しかし、道徳教育の要である「道徳の時間」の指導について、「子どもたちの現状を踏まえて、どのような指導をすればいいのか。」という疑問をはじめ、「もっと創意工夫をしたいのだが、どうすればいいのか。」という悩み、「もっと魅力的な授業をしたい。」という強い思いなど、指導する先生方からは様々な声が聞こえています。それらの先生方の声に少しでも応え、「心に響く道徳」「心に届く道徳」の実践をめざすうえで参考にしていただくために、本実践資料集を作成しました。

本資料集は、前半部分をガイド編とし、道徳の指導を進めていくうえで大切にしていただきたいことをまとめています。また、後半部分においては、道徳教育推進校の貴重な実践をもとに、効果的な指導実践例を観点別に掲載しております。指導の手引きとして、また、効果的な指導のヒントとして、若い先生からベテランの先生までご活用いただけるものと考えております。また、平成17年度本推進協議会発刊の『わかる道徳、楽しい道徳^(※)』と併せて活用いただければより効果的であると思います。

おわりに、本資料集作成にあたりご協力いただいた、文部科学省指定「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」研究推進校(紀美野町立野上中学校・和歌山市立岡崎小学校・古座川町立明神中学校・和歌山市立鳴滝小学校)並びに、道徳教育を推進されている上富田町立上富田中学校・広川町立広小学校の校長先生並びに教職員の皆様、また、貴重なご意見やご助言を賜りました委員の皆様方に感謝申し上げるとともに、和歌山県における道徳教育がより一層充実することを願っております。

平成20年3月
和歌山県教育庁学校教育局
小中学校課長 西原 孝幸

もくじ

I 魅力ある道徳の授業をめざして

ガイド編

1 道徳教育の要としての「道徳の時間」とは	1
2 心に響く、心に届く「道徳の時間」の基礎・基本	
① 指導過程とポイント、発問例	2
② 意見や考え方の取り上げ方と補助発問	3
3 心に響く、心に届く「道徳の時間」の工夫・改善	
① 多様な創意工夫で魅力ある授業を	4
② 各教育活動と響き合った「つながり」のある指導を	5
③ 「開かれた道徳教育」による家庭や地域と連携した指導を	6

II 魅力ある道徳の授業をめざした実践例

実践編

1 心に響く、心に届く指導の工夫

① 資料を拓く工夫 (話題性のある小説の一部を中心教材にして) 紀美野町立野上中学校(第1学年)	7
② 方法を拓く工夫 (展開方法と補助発問の工夫による話合い活動の充実) 和歌山市立岡崎小学校(第5学年)	9
③ 方法を拓く工夫 (子どもの考えを搖さぶり、心に響く発問) 和歌山市立鳴滝小学校(第5学年)	11
④ 方法を拓く工夫 (様々な感覚で心を搖さぶる授業) 紀美野町立野上中学校(第1学年)	13
⑤ 人を拓く工夫 (他者とのかかわり・ゲストティーチャーの活用) 和歌山市立鳴滝小学校(第4学年)	15
⑥ 人を拓く工夫 (異学年による合同授業) 古座川町立明神中学校(第1・2学年)	17
⑦ 時間を拓く工夫 (道徳の時間の連続性と各教科・領域等との関連を生かして) 和歌山市立岡崎小学校(第3学年)	19
⑧ 時間を拓く工夫 (重点的な内容項目の指導(複数時間扱い)) 古座川町立明神中学校(第3学年)	21
⑨ 体験活動と関連した指導の工夫 (車いす体験と関連させた学習) 広川町立広小学校(第6学年)	23
⑩ 教科等の関連による授業づくりの工夫 (話合い活動と一つの教材を軸に一日の授業が流れる道徳学習) 上富田町立上富田中学校(第3学年)	25

2 家庭や地域と共にすすめる道徳教育

～開かれた「道徳教育」をめざして～

27



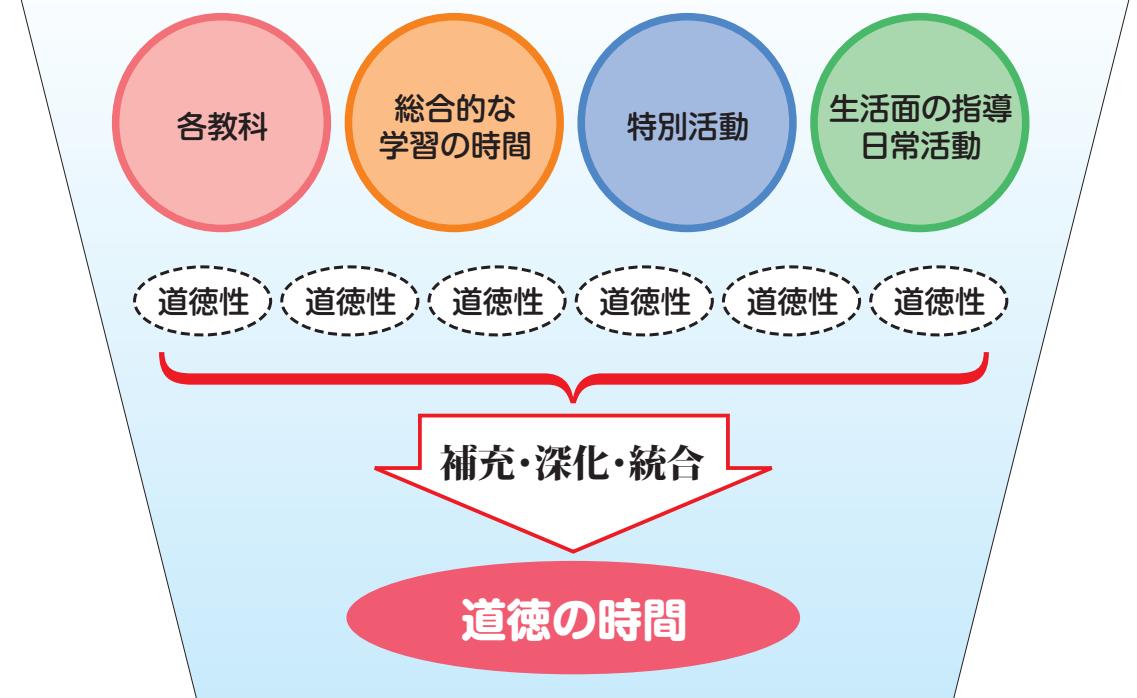
I 魅力ある道徳の授業をめざして

1 道徳教育の要としての「道徳の時間」とは

学校における道徳教育は、全教育活動を通して行われます。例えば、国語科での「話す」の指導では、相手の立場を考えて話すことを大切にします。また、社会科では、社会の一員としての資質を高めていくことをねらいとしています。生徒指導では、子どもの心に寄り添いながら、生徒個々の自己指導能力の育成をめざします。

このようにそれぞれの教育活動には、道徳性の育成にかかわる内容が直接的、間接的に含まれています。「道徳の時間」は、これらを、「補充」「深化」「統合」し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力の育成をめざす時間であり、道徳教育の要として存在します。

学校教育全体を通して行う道徳教育



補充

道徳的な押さえが不十分なところを補う

深化

「なるほど大切なことだ」と理解を深める

統合

様々な活動で得られた道徳的価値を結びつけていく



子どもたちが学ぶ道徳的な内容をしっかりと捉え、「道徳の時間」では、何を補充し、深化し、統合しようとするのかという視点で指導計画を考えることが大切です

2 心に響く、心に届く「道徳の時間」の基礎・基本

道徳の授業には、決まった形や方法はありません。「道徳の時間」の特質を踏まえたうえで、子どもたちが道徳的価値の自覚を深め、「よりよく生きていこう」とする気持ちが湧き上がってくるような創意工夫した指導が大切です。

一般的に行われている道徳の授業(※)における指導過程やねらい、発問例などを参考に、創意工夫した魅力ある道徳の授業を創りあげていきましょう。

① 指導過程とポイント、発問例

※ストーリー性のある読み物資料を活用した指導過程の一例

	ねらい	留意点や発問例
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活や生き方とかかわりがあるという意識を高める。 ○みんなで何について学習していくかを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実態調査やアンケート結果の活用 ○視聴覚機器による情報の提示 ○考える視点の設定 など <p>《発問例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ねらいに関する経験や思いなどを問う発問例 「自分の命を懸けて、人を助けたニュースを見たことがありますか。」「人から親切にされた経験を思い出してみよう。」 ●資料への動機付けの発問例 「ゆっくりと夜空を眺めたことはありますか。」 ●考える視点を焦点化する発問例 「自由と勝手はどうちがうのでしょうか。」 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>目先の面白さや興味・関心を求めるのではなく、資料と出会う必然性が生まれる設定と発問を考えることが大切です。</p> </div> </div>
展開(前半)	<ul style="list-style-type: none"> ○資料をもとに、中心人物の行為、苦悩、葛藤、感動などを共感的または批判的に追究し、ねらいとする道徳的価値を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人物の心情や判断を自分の言葉で語らせる発問 ○役割演技や動作化、実体験などによる共感的理解 ○道徳ノートなどに書く活動の導入 ○図や心情曲線などによる人物の心情変化の吟味 など <p>《発問例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●登場人物の心情を問う発問例 「そのとき、○○は、どんなことを考えたのでしょうか。」 ●登場人物の判断を問う発問例 「どんな気持ちから、○○は、～をしたのでしょうか。」 ●主人公の行為・行動の意義を問う発問例 「もし、○○がそうしなかったら、どうなったのでしょうか。」 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>あらすじを問う発問は避け、登場人物に自分を重ねて語れる発問や多様な価値観が引き出せる発問を用意することが大切です。</p> </div>  </div>

展開（後半）

- さらに、自分とのかかわりの中で、道徳的価値の自覚を深めていく。
- 今までの生活を振り返る。

- 展開前半での学習をもとに、より自分とのかかわりを深めたり、自分を見つめたりできる場の設定
- 登場人物の心情に自分の気持ちを重ね合わせる発問
- 自分の今までの経験を思い起こす発問 など

《発問例》 ●自分とのかかわりを深めていく発問例

「悩んだ末に○○したのは、どんな気持ちからでしょう。」「自分が○○だったらこの後どうするか考えてみましょう。」

●自分の生活経験を振り返る発問例

「友だちと協力できたのはどんな時ですか。その時、どんな気持ちになりましたか。」



自分を見つめるとは、反省や決意表明を強いることではありません。よりよい生き方に憧れ、子どもたちが前向きに心のアクセルを踏む契機をつくることが大切です。

終末

- ねらいとした価値を確認し、より意識化する。
- 生き方の方向として受け止め、明るい気持ちをもつ

- 授業の感想や気づきの交流
- 説話や教師自身の体験談、関係者の方からの話
- 新しく気づいたことの書きまとめ
- 心に響く詩や作文、ニュースなどの紹介 など

学級活動のように、即、実践を求めるものではなく、子どもたちに「自分にとって大切なことなんだな。」という意識を深めさせることが大切です



② 意見や考え方の取り上げ方と補助発問

子どもの意見や考えを、共感的に受け止めることは大切ですが、「なるほど」「他にありませんか。」という取り上げ方だけでは、学習の深まりは期待できません。

さらに深く考えていけるように、**子どもの発言を生かしながら補助発問(問い合わせ返す発問や切り返す発問など)**をタイミングよく意図的に行うことが必要です。

補助発問が必要な場面と発問例

○考え方の根拠をはっきりさせたいとき

「なぜ、そう思ったのかな。」「もう少し詳しく教えてほしいな。」など

○表面的な意見が続くとき

「そのような気持ちになったのは、どうしてかな。」「そういう思いだけかな。」など

○同様の意見や考え方が続くとき

「それで本当によかったのかな。」「だれもがそんな気持ちになれるのかな。」など

○学級全体でしっかり考え方合わせたいとき

「○○さんが言ったことについて、みんなはどう思いますか。」など



3 心に響く、心に届く「道徳の時間」の工夫・改善

① 多様な創意工夫で魅力ある授業を



子どもの心に届く道徳の授業をめざす中で、「道徳の学習は、楽しい。」という子どもたちの声がある一方、「いつも同じ形式でつまらない」という声もあることに留意する必要があります。

「道徳の時間」の役割や基本的な指導過程を踏まえたうえで、多様な創意工夫を行うことにより、魅力的で心に響く、心に届く道徳の授業となっていきます。

多様な創意工夫の視点例

～道徳の授業を拓く5つの工夫～

① 資料を拓く

例) ・ストーリー性のある資料以外のもの ・地域の先人の資料
・ねらいに即した自作資料 ・写真やビデオ ・新聞記事 など

② 方法を拓く

例) ・実体験や模擬体験 ・役割演技やロールプレイ
・多様な学習集団の編成 ・討論的な話し合い など

③ 人を拓く

例) ・教師の専門性を生かしたTT (校長や教頭の参加)
・地域や保護者の協力 ・外部講師の招へい など

④ 時間を拓く

例) ・重点的な内容の複数時間扱い、他の教育活動との関連
・授業時間の弾力的な運用 (60分扱い等) など

⑤ 場を拓く

例) ・座席の工夫、校庭や自然環境を生かした場での指導 など



「道徳の時間」の特質を見失わず、子どもの発達段階やねらいなどを考慮しながら、思い切った工夫を行うことが授業の活力を生むことになり、子どもたちにとって魅力ある授業になります。

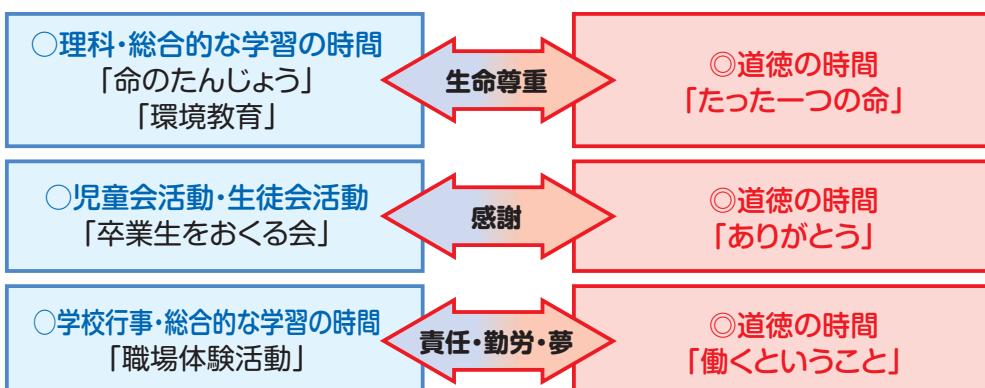
② 各教育活動と響き合った「つながり」のある指導を

子どもたちは各教科等において、様々な学習活動や体験活動を行っています。それらに含まれる道徳性と「道徳の時間」の指導を意図的、計画的に関連させることで、より効果的な指導が展開できます。

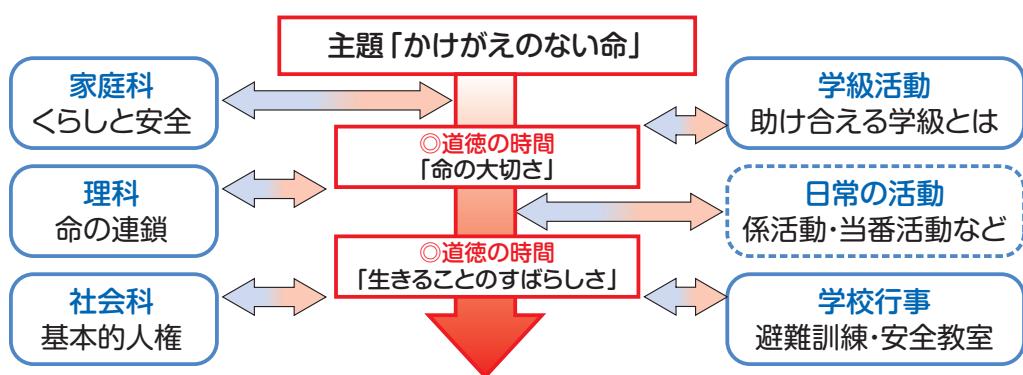
また、子どもたちに特に培いたいと考える道徳性について重点指導を行う場合にも、「道徳の時間」と各教育活動を響き合わせるように、「つながり」を重視した指導計画を立て、実践することが効果的です。

「つながり」をもたせた効果的な指導例

① 各教科等との「つながり」を図った指導例



② 「つながり」を单元化した指導例



わたしたち命あるものは、互いに支え合い、つながり合って生きている。
「生きていること」「生かされていること」に感謝し、自他の命を尊重して生きる。



響き合った「つながり」になるように、子どもの思考の流れを具体的に追いかながら、課題意識を継続させる工夫を考えておくことが大切です。

③ 「開かれた道徳教育」による家庭や地域と連携した指導を

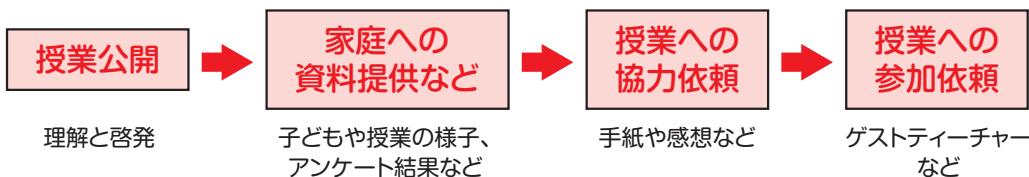
子どもは、地域の中で温かく見守られ、家庭と学校を心のよりどころとして過ごしています。豊かな心を育てる道徳教育を推進するには、地域を母体に、学校と家庭が連携して取り組むことが重要です。そのためにはまず、学校で行っている道徳の授業を地域や保護者に積極的に公開するなど「開かれた道徳教育」の推進が望まれます。

家庭や地域との連携を図る方策例

●「道徳の時間」の公開、参加・協力

- ・授業参観や学校開放月間などの機会に「道徳の時間」を公開する。
- ・家庭や地域の方々に指導への協力や参加を願う場合は、ねらいや内容などを事前に明確に伝え、年間指導計画との関連をふまえながら行う。

《「開かれた道徳教育」の推進例》



●共通理解を促進する広報活動

- ・道徳教育のねらいや内容、子どもの様子、また、家庭が果たす役割について、分かりやすい言葉で具体的に知らせ、共通理解と啓発に努めることが大切です。
- ・保護者や地域の反応を確かめながら、双方向性のある広報活動が望されます。

例) 定期的な学校の広報紙・学級通信・保護者会・地区の連絡会など

●保護者や地域の方々と行う多様な体験活動

- ・地域の環境問題を授業で取り上げたことを契機に保護者も関心を深め、環境保護への取組を、学校と家庭（子ども・教職員・保護者）で行うようになった学校もあります。
- ・生徒会が企画した地域の美化活動にPTA等も参加し、「共によりよい地域をめざそう」とする協同活動へと発展させることも、効果的な例として考えられます。

例) 地域の美化作業・リサイクルバザー・「アルミ缶を車いすに運動」など

日々の交流やつながりを大切にしながら、積極的な授業公開をはじめとした家庭や地域との連携を強める取組を工夫して創り出していくことが、道徳教育の推進につながります



II 魅力ある道徳の授業をめざした実践例

1 心に響く、心に届く指導の工夫

① 資料を拓く工夫

～話題性のある小説の一部を中心教材にして～ (第1学年)

紀美野町立野上中学校

○主題名 「本当の優しさとは」 中学校2-(2) 人間愛・感謝・思いやり

○資料 「佐賀のがばいばあちゃん」(徳間文庫)の一部を抜粋

○資料のあらすじ

芸能人である島田洋七氏の映画化された小説である。本授業では、中学三年生の修学旅行の前後の出来事を記した第16章を引用した。

野球部のキャプテンである主人公は、部員の久保君が母親の入院のため修学旅行に行けないことを知る。主人公と他の部員は、一緒に頑張ってきた仲間として共に修学旅行に行きたいと思い、久保君からの感謝を期待してアルバイトで費用を稼ぐ。しかし、久保君は受け取ろうとはしない。相手の気持ちを思いながらも相手の立場や状況を考えないことが意外な展開となる。「本当の優しさとは、相手にわからないようにするもの」という「がばいばあちゃん」の言葉により、主人公は自身の行為を振り返りながら、自己中心的な思いや期待を後悔することになるのである。

○「拓く工夫」の概略

工夫1 話題性のある小説の教材化 … 生徒の興味・関心を高める中心資料の弾力的な工夫

工夫2 資料の分析と取り上げ方 … ねらいとする道徳的価値に沿った資料の分析と提示

工夫3 著作権への配慮と対応 … ルールを遵守し、権利を尊重する指導姿勢

○本時のねらい

互いに相手の立場や思いを汲み取って理解し合うことの大切さを知り、よりよい人間関係や思いやりに満ちた集団を築いていこうとする態度を育てる。

	学習活動(主な発問や生徒の意識)	指導の工夫・留意点
導入	<p>1 「思いやり」や「優しさ」とはどういうことなのかを考える。</p> <p>○久保君はバイトのお金は何につかったのでしょうか。</p> <p>○治療費と野球道具の違いは何でしょうか。</p> <p>○俺(主人公)が「ごめん、ごめんな」と謝ったのはどんな理由からでしょう。</p> <p>○「本当の優しさ」とは何だと思いますか。</p> <p>・相手の気持ちになること ・何気なくできる親切 など</p>	<p>○事前に著書と著者を紹介し、「優しさ」について考えさせておく。</p> <p>○資料を三つの場面に分けて範読し、状況や登場人物の言動を確認する。</p> <p>○「本当の優しさとは、相手にわからないようをするもの」と論した祖母の言葉の意味を深く考えさせる。</p> <p>○初発問での話合いと比較させる。</p>
展開	<p>2 様子を読んで考え、話し合う。</p>	
終末	<p>3 感想を書く</p>	<p>○書くことを通して、自分をじっくりと振り返らせる。</p>

○工夫の実際

工夫1

日頃用いている読み物資料に比べ、マスコミ等で話題になっている小説の一部を教材化することは、授業のマネリ化を防ぎ、生徒の興味を引きつけることになった。加えて、授業者が実際に作品と出会い、大人として受け取った思いをもとに、同じ学習者として生徒と共に考え合うことで、心が響き合う学習が展開できた。

《長編小説を教材化する際の留意点》

- ・主人公の置かれている状況や人柄を短時間で生徒が理解できること
- ・主人公の心理が生徒の発達段階に応じて理解できること
- ・生徒と共に考え合う道徳的価値を焦点化すること



工夫2

授業者自身の読みによって得る思いには、教材化しない他の場面から影響を受けている場合がある。だからこそ書かれている出来事とそれに照らし合わせた道徳的価値を絞ることが大切である。

そこで、生徒が自分の生活体験と重ね合わせて、想像できそうな部分を教材として利用する。今回は本当の思いやりをテーマとして、自分勝手な親切や相手の感謝への期待などを、自分の考えと照らし合わせたいと考え、作品内の祖母の下の言葉をキーワードに授業展開を行った。

《祖母の言葉》

「本当の優しさとは、相手にわからないようにするもの」



〔「本当の優しさ」について発表し合う生徒たち〕

佐賀のがばいばあちゃん

思いやりとは?

- ・人を大切にすること
- ・相手がうれしいと思うこと

○みんなは、なぜ怒ったのでしょうか?

- ・みんなでバイトをしたのに来なかつたから
- ・頑張つたのに来ないから

○久保君は、なぜ修学旅行に行かなかつたのか?

- ・お母さんのことが心配だから
- ・家のことを考えると行けないと思ったから

○「ごめん、ごめんな」と謝った理由は?

- ・行かないと決めていたのに押しつけたから
- ・久保君の気持ちを考えてあげられなかつたから

○「本当のやさしさ・思いやりとは? 次の()内を考えてみよう!

- 「本当のやさしさとは」
- ・人の気持ちを考えること
- ・相手の立場になって考えること
- ・言いたいことも少し我慢できること

――

〔板書の様子〕

工夫3

小説の一部を教材として利用するには、著作権の問題を解決する必要がある。

そこで、出版社に電話連絡し、小説の一部を教材に利用したい旨を説明した。回答は、「研究授業等で小説を使用する場合、印刷物として参観者に配付し持ち帰らせるときは、著作者の了解が必要となる。その場合は著作者に確認をしますので少し期間を下さい。ただし、授業にだけ使用し、参観者に資料を配付しない場合はそのままお使い下さい。」とのことであった。今回は研究発表会が間近に迫っていたため、参観者には資料を配付しないことを出版社に伝え、了解を得た。

○実践を終えて

入学当初は3校の小学校から生徒が入学してきているため、友達関係で悩む生徒が多かった。そのたびに学級活動で話合いを行い、2学期は全体的に学級のムードも良好になってきていると思う。今回の「思いやり」をテーマにした道徳の学習を通して、生徒たちは相手の気持ちを考えて行動することの大切さを学んだのではないかと思う。

しかし、頭で考えれば分かることでも、日頃の生活ではまだまだトラブルも多く友達関係で悩む生徒も多いため、引き続き道徳の授業を軸に「思いやり」について考えさせていきたい。

② 方法を拓く工夫

～展開方法と補助発問の工夫による話合い活動の充実～(第5学年)

和歌山市立岡崎小学校

- 主題名 「信じ合い」 高学年2-(3)信頼・友情
 ○資料 「友のしうぞう画」(出典『5年生の道徳』文溪堂)

○資料のあらすじ

主人公「和也」と正一との友情を描いた資料である。幼なじみの二人は何をするのも一緒にいたが、正一が病気になりその療養のために九州に行く。離ればなれになった二人は最初の頃は文通をしていたが、いつしか正一から手紙が来なくなる。そして、一年ほどたったある日、正一の学校で作品展があることをニュースで知り、翌日、会場に行った。そこには、「友のしうぞう画」と題した自分(和也)を描いた正一の作品が飾られていた。

○「拓く工夫」の概略

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 工夫1 指導展開の工夫 | … 考え合う活動の充実をめざした中心場面からの学習展開 |
| 工夫2 意見の出し合いから話合い活動へ | … 論点を明確にした話合い活動の展開 |
| 工夫3 補助発問の工夫 | … 子どもの心を揺さぶり、価値に迫るための補助発問の工夫 |

○本時のねらい

互いに信じ合って、友情を深めようとする心情を育てる。

	学習活動(主な発問や児童の意識)	指導の工夫・留意点
導入	<p>1 「友達」というテーマで書いた作文を想起する。</p> <p>○この前、友達について作文を書きましたね。 思い出してみよう。</p>	<p>○より身近なものとするために、想起させる</p>
展開	<p>2 資料を読み、ぼくの気持ちについて話し合う。</p> <p>○「友のしうぞう画」を見て涙があふれたとき、 ぼくはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>・手が不自由なのにありがとう。 ・ぼくのために一年もかかって、 描いてくれたんだね。 ・君のことは、ずっと忘れないからね。</p> <p>○ずっと前から「忘れない」と思っていたのかな。</p> <p>○新しい友達と出会う中で、正一は一年かけて肖像画を描いていたんだね。ぼくはどんな気持ちだろう。</p> <p>・病気を患っているのにかけてくれて、感動した。 ・これほど正一君がぼくのことを考えてくれて てるのに、ぼくが考えなくてどうするんだ。</p>	<p>工夫1</p> <p>○場面を追うのではなく、中心場面から発問を行う。</p> <p>工夫2</p> <p>○思ったことや感じたことを出させながら、子どもの発言の中から、価値に迫る視点を見出していく。</p> <p>工夫3</p>  <p>○プラスの意見に対して揺さぶる発問を行ったり、切り返し発問を行ったりすることで、ねらいに迫る話合い活動へ導く。</p>
終末	3 教師の話を聞く。	<p>○子どもの心に残るように、余韻を残して終わる。</p>

○工夫の実際

工夫1

中心場面は、子どもたちの心が一番動く場面であり、問題意識を高める場面である。中心場面での学習（話合い・考え方）をいかに充実させるかが授業のポイントになる。そこで、今回は、場面を順に追う展開ではなく、中心場面から切り込む学習展開を行った。

工夫2

高学年になるほど、展開の工夫が重要となってくる。思いや考えを表現させることは大切であるが、1時間を通して単なる意見の出し合いで学習が完結してしまわないようにすることが必要である。

そこで、思ったことや感じたことを幅広く出し合う中で、子どもの発言を手がかりにしながら話合いの焦点を絞り、論点を明確にして子どもたちの意見が絡み合う話し合い活動をめざした。

一人一人が自分の思いをじっくりと語り、考え合う活動を重視することで、より魅力的な「道徳の時間」となった。



工夫3

「道徳の時間」で大切なことは、プラスの意見だけでなく、マイナスの意見（いわゆる本音、人間のもつ弱い部分）を引き出しながら心を揺さぶることである。

そこで、子どもたちが発言すると予想される多様な価値観に対して、それぞれ心を揺さぶる発問を用意しておき、子どもたちの心に揺れやズレを感じさせた。さらに、ねらいとする価値に対して立ち止まって考え方を深めさせる手段として切り返し発問を効果的に行うことで、道徳的価値の自覚をしっかりと深める方法をとった。



○本時の前後の教育活動

各教科・領域の特質を踏まながら、事前・事後の学習との関連を図った。特に体育科でのチームプレーの学習などと関連を図りながら、体験活動を主としたスパイラルな学習活動を行った。

また、本時に向けて事前に子どもたちが「友達」という存在をどのように考えているのかを自覚させるとともに、子どもたちに意識の連續性をもたせるために、「友達」という題名での作文を書かせた。事後の学習としては、総合的な学習の時間「IT'S LIFE」や学級活動において、友達のよさを実感できるような場（体験活動）が計画されているので、より道徳的心情、実践意欲、態度を高めることを大切に活動させた。

○実践を終えて

1時間の学習の成果としては、中心場面から学習を展開することで、単なる意見や感想の出し合いに終始するのではなく、子どもたちは、問題意識をもって活発に意見を出し、他者の意見や考えにも耳を傾けていた。また、子どもたちの意見や考えを共感的に受け留めながら、話し合い活動の視点を明確にしたり深めたりする補助発問を行うことにより、論点を明確にしながら話し合いを深めることができ、子どもたちにとって手ごたえのある学習となった。

課題として、より効果的にねらいに迫るための教師の出番（揺さぶるタイミング、切り返すタイミング）を逃さないことを大切にしていく必要がある。

③ 方法を拓く工夫

～子どもの考え方を揺さぶり、心に響く発問～（第5学年）

和歌山市立鳴瀧小学校

- 主題名 「かけがえのない命」 高学年3-(2)生命尊重
 ○資料 「だれか、たのむ」 (出典『生きる力』大阪書籍)

○資料のあらすじ

阪神・淡路大震災の話である。けがをした親子は、余震への不安の中、小学校へ避難しようとする。突然一人の青年が「だれか、たのむ。」と必死に叫ぶ。おばあさんが倒壊した家の中に閉じこめられていた。父母はすぐ助けに駆けつける。一人残された京子は不満と不安でいっぱいだったが、おばあさんを助けるために集まった人たちが、みんな通りすがりの人だったことを知った京子は足の痛さを忘れていた。

○「拓く工夫」の概略

- 工夫1 視聴覚機器の活用 … 視聴覚機器を活用することで、資料の話の状況をつかみ易くする。
- 工夫2 発問の工夫 … 子どもの発言を大切にしながら中心場面に導き、中心発問での話合いを深める補助発問を活用する。

○本時のねらい 生命の尊さを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。

○展開

	学習活動（主な発問や児童の意識）	指導の工夫・留意点
導入	1 ビデオを視聴し、阪神・淡路大震災の状況を知る。 ○どんなことが心に残りましたか。 ○「だれか、たのむ。」と言われ父母が助けに行ったとき、一人残された京子はどんなことを考えたでしょう。	○震災の悲惨な状況を知ることで、価値への方向付けを図るとともに資料への関心をもたせる。
展開	<p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>○京子が足の痛さを忘れていたのはどうしてでしょう。</p> <p>・人の心って温かいなあ…私は恥ずかしい。</p> <p>・助け合うことは大切。命って大事なんだな。</p> <p>工夫1</p> <p>工夫2</p>  	○通りすがりの人たちだけで精一杯救助しようとしている姿に感動し、変容していく京子の心情を考え合うことで、生命の大切さや尊さを感じ取らせたい。
終末	3 震災を体験した子どもの作文を聞く。	○何もしていないが救助活動を祈るような気持ちで見守っていた京子の思いに浸らせたい。

○工夫の実際

- 工夫1 13年前に起きた阪神・淡路大震災。子どもたちはまだ生まれておらず、どれだけの災害だったか詳しく知らない。話し合い活動で資料に浸り、自分の思いや考えを語り合い、道徳的価値に迫り合うためには、導入がとても重要である。
- そこで、地震発生により崩壊したビルや道路、火災や人命救助の状況をビデオ視聴することで、資料への興味・関心をもたせるようにした。



工夫2

中心発問での話合いを深めることができるように、子どもの意見や考えを受けた補助発問を適時活用した。

(中心発問)

小学校へ避難しに行く途中で、誰か知らない人に「だれか、たのむ。」と声をかけられましたね。父母は助けに行って、京子は一人で待っています。一人残された京子は、どんなことを考えたでしょう。

子どもの発言(○)と補助発問(◇) ※子どもの発言は抜粋	指導の効果
<ul style="list-style-type: none"> ○お父さんもケガしているのに、助けに行くことはない。 ○自分たちだけが助かればいい。避難所へ行って安心したい。 ○いつ余震がくるかわからないのに、知らない人を助けに行って勇氣がある。 ○自分もケガをして他人のことはどうでもいいと思ってたけど、困っている人は助けた方がいい。 <p style="background-color: #fce4ec; border: 1px solid #ff9999; padding: 5px; border-radius: 5px; text-align: center;">◇早く避難しようよという気持ちだけとちがうの?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○早く避難したいと思ってたけれど、もうあとちょっとやからがんばって! とか、早く出てきてと思っている。 ○早く早くがんばってという気持ちになってきた。 <p style="background-color: #fce4ec; border: 1px solid #ff9999; padding: 5px; border-radius: 5px; text-align: center;">◇「早く早く」ってどういうこと?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協力して助けているのを見たら、応援してがんばれ、こんなときはみんなで協力しやなと思った。 ○京子は心の中で埋まっている人も助けようとしている人にも、がんばれがんばれと応援している。 ○みんな通りすがりの人やのに、やっぱり助け合う力、人間だけができる力だと思う。 <p style="background-color: #fce4ec; border: 1px solid #ff9999; padding: 5px; border-radius: 5px; text-align: center;">◇「人間だけができること」ってどういうこと?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動物と違って、みんなが一体となって助けることがすごい。 ○他人やのに助け合っている。自分だけ助かっただいいというのを反省しているし、恥ずかしい。 ○他人なのに人のことを考えてがんばっている。 <p style="background-color: #fce4ec; border: 1px solid #ff9999; padding: 5px; border-radius: 5px; text-align: center;">◇「人のことを考える」ってどういうこと?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人の命のことを考えれば、相手を助けられる。 ○相手のことを大切にしたり心配したりする。 ○相手の心を考えたら、人のことを思えるようになれる。 ○何かできることはいか考える。 	<p>◎プラスの気持ちはなかなか出てこなかつたが、必死に救助しようとしている人たちのことを考えた発言が出てきた。</p>  <p>◎補助発問を適時行うことで、励ましの言葉を心の中でかけているだけでなく、自分の気持ちを恥じている京子の思いにも寄り添って考えられるようになった。</p>  <p>◎「人のことを考える」とは、人の命を考えるだけではなく、相手の気持ちを考えたり相手を大切にしたりすることだと子どもの発言から出てきた。</p>

○本時の前後の教育活動

【事前】社会見学(人と防災未来センター)、米作り(稲刈り・脱穀・もみすり・お米洗い)

【事後】毎日新聞記者の出前授業(新潟県中越沖地震の取材レポート)、「親子もちつき大会」に向けて

○実践を終えて

心に響く「道徳の時間」を目指して中心発問から話合いを深め、価値に迫る手立てとして揺さぶるための補助発問を考え、展開を組み立てた。その際に子どもの発言を大事に考え、子どもの語る言葉を取り上げて発問を投げかけることで、子どもの思考を広め深めることができたと思う。

本時では「人間だけができる力」についてもっと考えさせたかったが、「“人のことを考える”とはどういうことか?」と発問したことで、生命だけでなく多様な意見が出てきた。相手の存在を大切に考えることも生命尊重につながると考えたい。

④ 方法を拓く工夫

～様々な感覚で心を揺さぶる授業～(第1学年)

紀美野町立野上中学校

○主題名 「生命のすばらしさ」 中学校3- (2)生命尊重

○資料 「生命の誕生ってすばらしい」 (出展『自分を見つめる』 晴教育図書)

○資料のあらすじ

主人公の女生徒は、自分の誕生前に流産した母の話を聞く。母は、流産しやすい体質であることから、非常に神経質になって生活した。そして、「もう子どもは産めないのではないかとあきらめそうになったとき、あなたを授かったのよ。私はそのことを告げられたときは、医師の前で恥ずかしげもなくぼろぼろと涙をこぼした。」と話す。主人公は、母の話を聞きながら、親が自分に寄せてくれている愛情の深さをしみじみ感じる。そして、生命の大切さを痛感するとともに、親がどのようなものにもまさる存在であることを自覚するのである。

○「拓く工夫」の概略

工夫1 様々な感覚を通した実感 … 全身の様々な感覚を通した実体験により感覚的に捉える。

工夫2 家庭と連携した指導 … 保護者との連携を密にした道徳の学習を展開する。

工夫3 心に響く終末の工夫 … 感動したことや感謝したいことを自分の言葉で表現させる。

○本時のねらい

母親がぼろぼろ涙を流した理由を考え合い、家族からの手紙を通して、自分への家族の深い愛情に気づき、自他の命を大切にしようとする態度を育てる。

○展開

	学習活動(主な発問や生徒の意識)	指導の工夫・留意点
導入	1 「赤ちゃん」を感じ合う体験活動 を行う。 工夫1	○赤ちゃんの様子を様々な感覚を通して確認することで、自身の誕生を意識づける。
展開	2 資料を読んで話し合う。 ◎「おめでたです。」と医師から告げられ、ぼろぼろと涙を流した母はどんな気持ちだっただろう。 ・子どもが産めないとあきらめかけていたので、嬉しくて嬉しくて仕方なかった。 ・感動のあまり、無性に涙がこぼれた。 ・もう産めないとと思っていたので、信じられない気持ちと嬉しい気持ちで一杯になった。 工夫2	○感情を込めて範読する。  
終末	3 家族からの手紙を読む。 4 家族の人に手紙の返事を書く。	○あらかじめ、家族の人に生徒が産まれたときの様子を手紙に書いてもらい、確認しておく。 ○今の気持ちを自分の言葉で表現することにより、ねらいに迫る。

○工夫の実際

工夫1

全身の様々な感覚を通して「赤ちゃん」を体感することで、自分自身もその時を生き、これまでの通過点であったことを感覚的に捉えることができた。



《体験活動》

- ①粉ミルクのにおいをかぐ。
 - ②粉ミルクの味を確かめる。
 - ③赤ちゃんの靴下をさわる。
 - ④赤ちゃん人形を抱く。
 - ⑤出産シーンのビデオを見る。
- (性教育のビデオを短時間に編集して活用)



[赤ちゃん人形を抱く生徒]

工夫2

事前に保護者に授業のねらいや内容を連絡して理解いただいた上で、「家族からの手紙」として、自分の子が誕生する前後の様子や思い、願いなどを書いてもらうよう依頼した。

生徒たちは、家族の愛情を受けて誕生した自己の生命の尊さを改めて確認でき、自分が大切な存在であるこ

とを感じることができた。

授業後は、生徒たちが書いた返事の一部を、該当生徒の了解を得て学級通信や学級の朝の時間に紹介し、価値の自覚を深めるようにした。

また、子どもたちが書いた返事を保護者面談の際に紹介し、授業への協力のお礼と授業の様子などを話した。



[「家族からの手紙」をじっくり読む生徒]

工夫3

「家族からの手紙」に返事を書くという活動を終末に設定することにより、生徒がこの時間で感じたことを自分の存在を見つめながら振り返ることができた。

《「家族からの手紙」への返事》(一部抜粋)

- ・生まれたときの様子が分かって良かった。
産んでくれてありがとう。
- ・もしかしたら、産まれていなかったかもしれない
と初めて知り、今ある命の重さを感じた。
- ・家族の人がこんなに大切にしてくれていたんだと知った。
嫌なことがあっても、頑張ろうと思った。

《授業後の生徒の感想》

今日は、「生命の誕生ってすばらしい」を学習しました。私は、家族の人がこんなに私のことを思っていてくれていたことを知り、とてもうれしかったです。

○実践を終えて

全身の様々な感覚に訴えるための、粉ミルクや赤ちゃんの靴下、赤ちゃん人形、出産シーンビデオ等を使った導入により、生徒たちは楽しそうに活動した。口々に「懐かしいにおい」「懐かしい味」という表現も出て、その後の展開を深めることができた。

保護者に産まれたときの事を書いてもらうときは、あらかじめ見本を入れ、保護者が書く内容にあまり差が出ないように、また、書きにくくならないように配慮したことが生きたと思う。

生徒たちは、生まれた喜びや家族への感謝、自分の存在の重さを実感できていたと感じるが、学習内容が多く、活動を精選していく必要も感じた。

⑤ 人を拓く工夫

～他者とのかかわり・ゲストティーチャーの活用～(第4学年)

和歌山市立鳴瀧小学校

○主題名 「一人の命の大切さ」 中学年3-(2)生命尊重

○資料 「500人からもらった命」(出典『ゆたかな心』新しい道徳4年 光文書院)

○資料のあらすじ

全身の血液を入れ替えなくてはならない病気の人を救うために、医師や看護師、福井放送局の関係者、また放送を聞いて駆けつけた500人以上の献血者が行動を起こし、かけがえのない命が救われたという実話に基づいた話である。

○「拓く工夫」の概略

工夫1 多様な「人やこと」とのかかわり … 子どもの思考を大切にしながら、「人やこと」にかかわる体験活動等を通して「命」をテーマに学習を進める。

工夫2 ゲストティーチャーの活用 … 本時の学習にゲストティーチャーを招き、授業のねらいに迫る話を聞く。

○本時のねらい

他人の命を救いたいと願う心はだれにもあることや、支え合って生きている「いのち」に気づき、生命を尊重する態度を育てる。

○展開

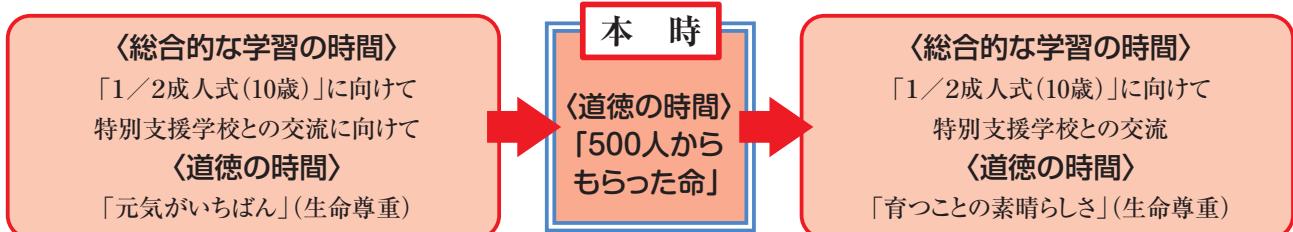
	学習活動(主な発問や児童の意識)	指導の工夫・留意点
導入	<p>1 「いのち」の大切さについて学習していることを想起する。 工夫1 (授業全般にかかわる)</p> <p>2 資料「500人からもらった命」を読み、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どういうことが心に残りましたか。 ○重い病気の患者さんことを知った人々は、助けるためにどのような思いで動いたのでしょうか。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-right: 10px;"></div> <div style="display: flex; flex-direction: column; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 0.8em;"> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐにラジオやテレビの放送で献血を呼びかけよう。 ・献血で命が救われるなら進んで協力したい。 </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  </div> </div> </div> <p>○患者さんが助かったことを知った人々は、どんな思いをもったのでしょうか。</p> <p>3 「いのち」は、たくさんの人たちの支えによって生かされていることに気づく。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-right: 10px;"></div> <div style="display: flex; flex-direction: column; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 0.8em;">  </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> 工夫2 </div> </div> </div> <p>4 ゲストティーチャーのお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○献血を通し、助け合う人たちのお話を聞きましょう。 	<p>○事前の学習を想起させ、ねらいとする価値への導入とする。</p> <p>○放送を聞き、献血に駆けつけた人たちの思いを、しっかりと考え方させる発問をする。</p> <p>○「協力の輪」によって患者を救うことができたことに気づかせる板書の工夫をする。</p> <div style="text-align: center;">  <p>[板書を使って話をするゲストティーチャー]</p> </div> <p>○「支え合ういのち」についての理解を深め、自分たちも多くの人に支えもらっていることを感じさせる。</p>
終末	<p>5 これからの自分の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習で考えたこと、学んだこと、生かしていきたいことを書きましょう。 	<p>○自分たちの姿を確かめることで、これからも前向きに生きようとする意欲につなげる。</p>

○工夫の実際

工夫1

「道徳の時間」を軸に、関連する学習活動や体験活動などを結びつけ、「命」について学習する単元（「いのちを大切にし、共によりよく生きる」）として指導を行った。

生命尊重の心をはぐくむ「道徳の時間」の指導を系統的に行うとともに、多くの友達とかかわる体験活動や互いを認め合う活動などと関連させた指導により、目標に迫りたいと考えた。



工夫2

今回の「道徳の時間」においては、献血について詳しい日本赤十字血液センターの方をゲストティーチャーとしてお招きし、子どもたちに実際の様子を専門家の生の声で教えていただく場面を設定した。この指導を効果的にするために、事前の打合せを2度行った。

《事前打合せの内容》

- ◇学級の取組の紹介、本時のねらい、資料の内容、授業展開などについて
- ◇日本赤十字血液センターの活動内容、担っている役割、血液などについて
(本資料の時代には、病院での献血が行われていた。)
- ◇授業開始前より本時の流れをご覧になり、展開の後半でお話し頂くことについて



《お話しされた内容》

人は、支え合って生きていること、献血が人の命を助けること、子どもの発言の中にあった「病気の人を助けてあげたい。」「助かってよかったです。」という気持ちを大事にしてほしいことなど、子どもたちに分かりやすく話された。

また、本資料とかかわって、輸血を必要とする人が多数出た阪神・淡路大震災のとき、私たち和歌山県の多くの人々も血液センターの呼びかけに応え、献血に訪れたとのことである。

ゲストティーチャーへの手紙

私たちのために鳴滝小学校に来ていただき本当にありがとうございました。大人になったら献血をすると決めています。私の血で人が助かるのならたやすいことだと思います。たった一つしかない命を大切にしたいです。



[「協力の輪」を意識させる板書の工夫]

○実践を終えて

本単元の展開にあたり、実話に基づいた話を取り上げ、ゲストティーチャーの協力を得、その出会いは感動を呼んだ。事前の学びとして、頂いた子ども用の資料をもとに学習したり、阪神・淡路大震災の時の様子をビデオや写真で知っておいたりしたことでも、本時の深まりにつながったと思う。

ゲストティーチャーのお話で、身近な大人たちが「人の命を救おう」と動いた事実、今も毎日「献血」が人を助けているという事実を聞くことで、子どもたちは「命の尊さ」を改めて感じることができたようである。また、「生かされている命」に気づくなど、子ども一人一人の生命尊重の思いが深まったように思う。

⑥ 人を拓く工夫

～異学年による合同授業～(第1・2学年)

古座川町立明神中学校

- 主題名 「友達の考え方から学ぼう」 中学校2-(5) 謙虚・広い心
 ○資料 「無人島へ行こう」 (出典『対話ですすめる人権教育』和歌山県教育委員会)

○資料のあらすじ

グループで無人島に行くことになる。その際、「必要な物」と「欲しい物」をそれぞれ5つ考えさせ、それらをグループごとにまとめ、それについて理由や考えを話し合う。

○「拓く工夫」の概略

- 工夫1 異学年合同の学習活動 … 多様な考えに出会う1年生と2年生の合同道徳授業
- 工夫2 TTによる指導の工夫 … 複数の指導者の協働による教材研究と効果的な役割分担
- 工夫3 保護者の参加 … 保護者と生徒が共に考え合う道徳の学習

○本時のねらい

いろいろな見方や考え方があることを理解し、謙虚に他に学ぼうとする心情を育てる。

○展開

	学習活動(主な発問や生徒の意識)	指導の工夫・留意点
導入	<p>1 自分と違う考え方に出会った経験を出し合い、資料の設定を確認する。</p>	
展開	<p>2 無人島で、仲間と助け合って生きていくには、どのような物が必要か考え、グループ(生徒・保護者)で話し合いながら5つにしほる。</p> <p>○この無人島で助け合って生きていくために「必要な物」を5つ考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火をつけるもの ・衣類や食料 ・テントセット ・音楽プレーヤー ・大きめの桶 ・水 など <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの考え方と同じものもあるし、違うものもあるな。 ・どうして、それが必要なのかな? </div> <p>3 話合いを通して気づいたことを発表し、気づきについて話し合う。</p> <p>○あなたは友達の意見を聞いて、どう思いましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの意見にはなかつたけれど、理由を聞いて必要だと思った。 ・たくさんの意見を聞くことができ、参考になった。 </div>	<p>工夫1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生と2年生の生徒を交えたグループを構成し、多様な考えに接することができるようする。 <p>工夫2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両担任でTT指導を行い、話合いが深まるように、グループごとにアドバイスをする。 <div style="text-align: center;">  <p>[異学年グループによる話し合い]</p> </div> <p>工夫3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者もグループに分かれ、生徒と共に考える。
終末	<p>4 本時の学習を振り返り、自分の心の変容を「道徳ノート」に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心の変容を書くことで、考えを深めさせる。

○工夫の実際

工夫1

本校1年生は女子が1名のため、授業で同性とコミュニケーションを図る場がない。また、2年生6名は、同質の固定的な考え方や意見になり授業に深まりが出にくいこともある。

そこで、小規模校の特性を生かして異学年合同の授業形態を考え、学年差や個人差に留意した発問や展開に留意しながら授業を進めた。

異学年による合同授業は、

下学年が上學年の学び方を学ぶことができる

多様な意見や異質な考え方出会いができるなどのメリットがある。



クラスや学校の実態によって、異学年合同授業、全校道德、他校との交流学習など、いろいろな学習形態をとることができる。

多様なかかわりの中で自分を見つめることができる。

自己理解と他者理解を深める。

工夫2

《TT指導のメリット》

- ◇協働で教材研究を行うことで質の高い授業となる。
- ◇より多様な授業形態での指導が可能となる。
- ◇より一人一人の生徒に応じた指導や支援が行える。
- ◇授業の評価を複数の目で行うことができる。



[両担任によるTT指導]

TT指導のメリットを生かすために、教材研究(授業展開、発問、予想される生徒の意識、役割等の検討)を行い、授業後は、生徒の学習中の様子をもとに評価を行い、板書や発問、「道徳ノート」の活用などについて課題と成果を明確にし、次時の授業に生かした。

工夫3

授業参観日に保護者参加型の道徳の授業を実施した。



[授業に参加する保護者]

いろいろな考え方があつて悩みますね。

初めて道徳の授業に参加して、今まで気づかなかつた子どものよさを知りました。

《保護者の考えを聞いた生徒の感想》

- ・植物の種が必要だという親の意見は、すごいと感じた。
- ・やっぱり長く生きていると違うなと感じた。

○実践を終えて

- ・合同の道徳授業を通して、多様な考え方や意見にふれることは、両学年にとってよい結果を生み出した。人数が増えたことで、授業に活気と動きが出てきた。
- ・両担任で授業構想を練り、授業に臨むことで、生徒の様子をしっかりと観察することができるとともに、そのことを次の授業に生かすことができ、道徳の授業をすることが楽しみになってきた。
- ・保護者参加型の道徳の授業は、保護者に道徳の授業について知っていたうえで有効であった。また、保護者の考えに触ることは、生徒にとってよい刺激にもなった。
- ・異学年合同授業では、特に資料の選択が重要である。

⑦ 時間を拓く工夫

～道徳の時間の連続性と各教科・領域等との関連を生かして～(第3学年)

和歌山市立岡崎小学校

- ねらい
- ・友達のよさを見つけ、互いに仲良く助け合おうとする心情を育てる。
 - ・人とのかかわりを大切にし、相手の心を感じながら接しようとする態度を養う。

○全体構想(各教科・領域との関連 工夫1)

各教科	道徳の時間 工夫2	総合的な学習の時間・特別活動
<p>社会科</p> <p>単元：人びとのしごととわたしたちのくらし</p> <p>道徳との関連 「尊敬・感謝、礼儀」</p> <p>・地域の学習において、仕事に携わっている人々の工夫や願いを具体的に考え、自分たちの生活とのかかわりについて知り、感謝の心につなげる。</p>	<p>主題：ほんとうの友情</p> <p>資料名：「なかよしから」</p> <p>内容：信頼・友情</p> <p>目標：友達のことをよく考えて、友達のことを大切にしようとする気持ちを育てる。</p> <p>主題：困っている人のために</p> <p>資料名：「学校の帰り道」</p> <p>内容：思いやり・親切</p> <p>目標：だれに対しても思いやりの心で接し、進んで親切にしようとする心を育てる。</p> <p>主題：友達と助け合って</p> <p>資料名：「マラソン大会」</p> <p>内容：信頼・友情</p> <p>目標：友達と互いに理解し合い、信頼し助け合おうとする態度を育てる。</p> <p>主題：感謝する心</p> <p>資料名：「見えないおまわりさん」</p> <p>内容：尊敬・感謝</p> <p>目標：自分を支えてくれている周りの人たちに尊敬と感謝の気持ちをもって接する態度を育てる。</p> <p>主題：思いやりを行動で</p> <p>資料名：「たった一言」</p> <p>内容：勇気</p> <p>目標：相手の気持ちを理解し、正しいと思うことは勇気を出して行動に移そうとする態度を育てる。</p> <p>（本時）</p>	<p>総合的な学習の時間</p> <p>単元：地域の人と触れ合おう ジャンク・アート</p> <p>道徳との関連 「尊敬・思いやり・礼儀」</p> <p>・地域に住んでいるゲストティーチャーが海の漂着物でアートを作るときの思いを聞く。その後、自分たちもジャンク・アートに取り組む活動を通して、作品に対する思いを感じようとする心を育てる。</p>
<p>国語科</p> <p>単元：ちいちゃんのかげおくり</p> <p>道徳との関連 「思いやり」</p> <p>・ちいちゃんの家族の心情を読み取り、相手を思いやる心を感じ取る。</p>	<p>主題：困っている人のために</p> <p>資料名：「学校の帰り道」</p> <p>内容：思いやり・親切</p> <p>目標：だれに対しても思いやりの心で接し、進んで親切にしようとする心を育てる。</p>	<p>学級活動</p> <p>単元：いいとこ見つけカードを書こう</p> <p>道徳との関連 「信頼・友情」</p> <p>・同じ班の友達のいいところを見つけて書く活動を通して、友達のことを知ろうとする態度を育てる。</p>
<p>体育科</p> <p>単元：ポートボール</p> <p>道徳との関連 「協力・信頼・公正公平」</p> <p>・チームの人を思いやり、みんなが楽しく活動するためにはどうすればいいのか考え合う。</p>	<p>主題：友達と助け合って</p> <p>資料名：「マラソン大会」</p> <p>内容：信頼・友情</p> <p>目標：友達と互いに理解し合い、信頼し助け合おうとする態度を育てる。</p>	<p>学級活動</p> <p>単元：お誕生会をしよう</p> <p>道徳との関連 「思いやり、信頼・友情」</p> <p>・友達の誕生を祝う会を主体的に計画してお祝いのメッセージを送るとともに、誕生日を迎えた友達の得意なことや将来の夢を聞き、友達のことをみんなが知る機会にする。</p>
<p>音楽科</p> <p>単元：音楽会をしよう</p> <p>道徳との関連 「協力、思いやり、友情」</p> <p>・互いに教え合いながら協力して1つの曲を創り上げる。</p>	<p>主題：感謝する心</p> <p>資料名：「見えないおまわりさん」</p> <p>内容：尊敬・感謝</p> <p>目標：自分を支えてくれている周りの人たちに尊敬と感謝の気持ちをもって接する態度を育てる。</p>	

- 日常活動
- ・朝の会、帰りの会：友達のよさを見つけられる会にする。
 - ・係活動：友達と協力し合い、クラスみんなのことを思って仕事をする。
 - ・休憩時間：誘い合って、たくさんの友達と仲良く遊ぶ。

○設定理由

学級の子どもたちは、明るく元気な子どもが多く、ほとんどの子どもが外遊びを楽しんでいるが、相手のことを考えていない言動が気になることがある。また、遊びの中に自分から入りにくい友達がいても、気の合った友達同士で遊んでいるので気付いていないようである。

そこで、友達と協力する楽しさや、相手を喜ばせたり、相手と共に喜んだりする楽しさを味わえる場や機会を意図的に多く設定し、「道徳の時間」との関連をもたせた。その上で、「道徳の時間」において、人の心を思いやった本当の勇気とはどういうものかを考え、実践していこうとする態度を育てたいと考えた。

○本時のねらい

相手の気持ちを理解し、よいことや正しいと思うことは勇気を出して行動に移そうとする態度を育てる。

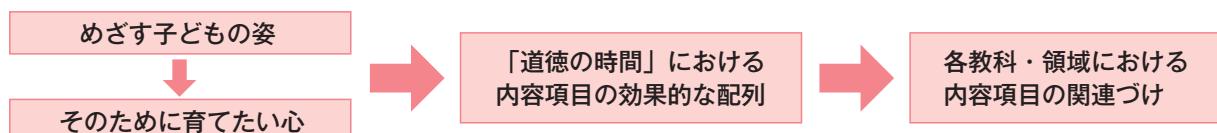
○展開

	学習活動(主な発問や児童の意識)	指導の工夫・留意点
導入	<p>1 題名を知る。</p> <p>○今日のお話は「たった一言」という題です。 どんなお話でしょうね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味・関心を高める。
展開	<p>2 資料を読み、ぼくの気持ちを話し合う。</p> <p>○どこが心に残りましたか。</p> <p>○3人で遊ぶ約束をしているときに、よしふみさんが通りかかったね。 そのときのぼくの心の中はどうでしょう。</p> <p>・わたしも一人やつたらぜつたいいやだから、気持ちもわかるし…。</p> <p>○「一緒に遊びに行かない?」と声をかけたぼくは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <p>・ほつとした。うれしそうにぼくの方を見ている。 ・勇気を出して言ったかいがあった。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 中心場面から学習を展開し、表現の工夫として役割演技を取り入れる。 
終末	3 今日の学習についての感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 感想の題名を各自考えて書く。

○工夫の実際

工夫1 全体構想図(各教科・領域との関連図)の作成

- 各教科・領域との関連を明確にし、それぞれの「道徳の時間」と結びついた体験活動を意図的に組み込んだ。特に総合的な学習の時間や特別活動では、本時の資料を扱うための事前学習としての体験活動ではなく、それぞれの年間計画に基づいた单元の中で、子どもたちに育てたい心(内容項目)につながる部分を指導者が把握し、子どもたちの意識の連続性を大切にして全体構想を作成した。



工夫2 「道徳の時間」の連続性

- 全体構想のねらいを達成するために効果的な「道徳の時間」の配列を考えた。今回は、信頼・友情→思いやり・親切→信頼・友情→尊敬・感謝→勇気の順で学習を展開した。子ども同士のかかわりを増やし、その子どものもつよさをもっと見つけていってほしいと願ったからである。そして、互いのよさを認めながら、協力して活動することで、友達のよさを感じ、人の心を感じ、信じられる子どもに育ってほしいと考えた。みんなが力を合わせることの大切さやすばらしさ、また、優しさや親切、本当の勇気について、一連の学習と体験活動を通して感じさせたいと考えた。

○実践を終えて

こんな子どもになってほしいと指導者が具体像をもつことで、その達成に向けて育てたい心を具体的に設定できた。これらのことから「道徳の時間」を毎週展開していくことで、1時間の「道徳の時間」にとどまらず、めざす子ども像に向けて教育活動全体を見通して、意図的・計画的な指導ができたと思う。特に、各教科の学習や特別活動・総合的な学習の時間などにおける体験活動と関連させることで効果的な道徳学習が展開できたと考える。今後も、「道徳の時間」と各教科・領域の相互の関連を一層効果的なものになるようにしていきたい。

⑧ 時間を拓く工夫

～重点的な内容項目の指導（複数時間扱い）～（第3学年）

古座川町立明神中学校

○主題名 「命を考える」 中学校3-（2）生命の尊重

○資料 「いのちをつなぐ」 （出典）新潟市 和泉哲章氏作成の資料を一部改編

○資料の説明

軽い気持ちで行った骨髓ドナー登録により、骨髓の移植提供が現実のものとなった主人公が、自分の将来や家族の思いの中で不安と使命感に悩みながらも、生命の重みや人間としての生き方について真剣に考え、自分なりの答えを出していく。

○「拓く工夫」の概略

工夫1 複数時間扱い

… 事前の教育活動と考えを深める複数時間による指導

工夫2 「道徳ノート」の活用

… 心の成長を振り返り、内省できる継続的な取組

○本時のねらい

白血病と骨髓移植をテーマに、「人間の生命」について考え、自己の生命とともに、他者の生命も大切にしようとする心情を育てる。

○展開

	学習活動（主な発問や生徒の意識）	指導の工夫・留意点
事前の教育活動	1 骨髓提供の様子を知り、命について考える。	○ある患者の闘病記録を紹介しながら、骨髓提供の様子や「白血病」「骨髓移植」「骨髓バンク」などについて理解させる。
第1時（道徳の時間）	<p>1 事前の教育活動で感じたことなどを述べ合う。</p> <p>2 資料を読み、ドナー候補となった主人公の葛藤を中心に話し合う。</p> <p>○ドナー候補になった主人公は、どんなことを考えただろう。</p> <p>・患者や患者の家族のことを考えると、骨髓を提供したい。 ・助けたいが移植中の事故のことを考えると怖い。 ・自分の家族のことを思うと迷う。 ・迷うならやめるべき。</p> <p>○あなたは、ドナー候補になったらどうしますか。</p>	<p>○TTの役割分担を行い、生徒一人一人を支援しながら、授業を展開する。</p>  
工夫1	<p>1 前時の感想をもとに、自分の考えや他の人の考えを想起する。</p> <p>2 ビデオ「プロジェクトX 決断 命の一滴」を見て、話し合う。</p> <p>○患者の命を救うために、ボランティアに心血を注いだ人たちの姿を見て、あなたはどう思いましたか。</p> <p>3 道徳ノートに書いたことを発表する。</p>	<p>○話し合った後、「道徳ノート」に考えをまとめさせる。</p>
工夫2		<p>○「道徳ノート」から一人一人の生徒の感想を把握しておく。</p> <p>○生命を守る活動に参加している多くの人たちの思いへと、さらに広げて考えさせる。</p> <p>○心の変容や深まりに焦点をあてて、「道徳ノート」に各自の思いや考えをまとめさせる。</p>

工夫1

重点的に指導する内容項目(本校では「生命尊重」「思いやりの心」)を複数時間で構成して指導の充実を図った。複数時間で指導するメリットとして次のことが考えられる。

- 多様な視点や視野で考えさせる授業を組み合わせることができる。
- 資料を理解した上で、考え合う活動をしっかりと確保できる。
- 多様な指導方法や指導体制をとりやすい。
- 前時の学習や他の教育活動と関連させた取組を図りやすい。



[視聴覚機器を活用した事前の活動]

重点的に指導したい内容項目

《事前の教育活動》

- ◇道徳的な思考や判断を支える出会いや体験の場をもつ。
- ◇資料に対する興味・関心をもたせ問題意識を引き出す。
- 《視聴覚機器の活用・体験活動・専門家の参加などの工夫も考えられる》

《道徳の時間》

《道徳の時間》(生命尊重) 第1時

- 道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を培う。

《道徳の時間》(生命尊重) 第2時

- さらに道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を高める。

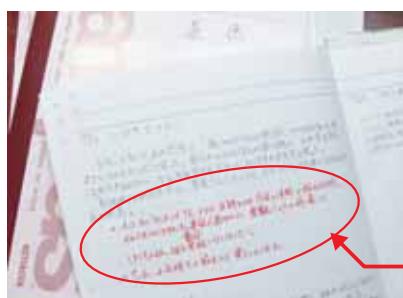
- ・別の視点から考え合う。
- ・より深く話し合う。
- ・広い視野で見つめ合う。

工夫2

「道徳ノート」とは、「道徳の時間」において、発問に対する意見や考えを書いたり、まとめたり、あるいは、他者の意見をメモしたりするもので、3年間を通して活用する。

一冊のノートに綴り続けることで、生徒たちは習ったことを振り返りながら、つながりをもった道徳の学習ができる。また、3年間の道徳の学習の足跡が刻まれ、自分自身の心の成長の貴重な財産となる。

また、生徒の記述に対して、指導者がコメントを書くことを通して、事後指導や個別指導に役立てている。



[「道徳ノート」]

指導者が、コメントを書くことにより、生徒との心のつながりが強化され、一人一人の心に寄り添いながら心の成長を支援できる。

《生徒の感想》(抜粋)

- ・私は、18才になつたらドナー登録をしたい。微力ながら命を失いそうな人のために役立ちたい。
- ・これから僕の考えは変わるかもしれないけれど、ドナー登録はできない。今は、難病を抱える人たちが少しでも良くなることを祈っています。



○実践を終えて

骨髄移植をテーマとしたこの資料は、「生命」について深く考えさせられる大変魅力的な資料である。そこで、事前の教育活動を設定し、白血病や骨髄移植の取組について出会いの場を設定したうえで、本学級の重点指導項目としている『生命の尊重』をねらいとし、ビデオ視聴を含めた複数時間の指導計画を立てて授業展開を行った。

「命の尊さについて、学ぶことができたか?」の問いに、大半の生徒は「はい」と答えた。複数時間で計画したこと、生徒の道徳的価値の自覚がより深まったと感じている。

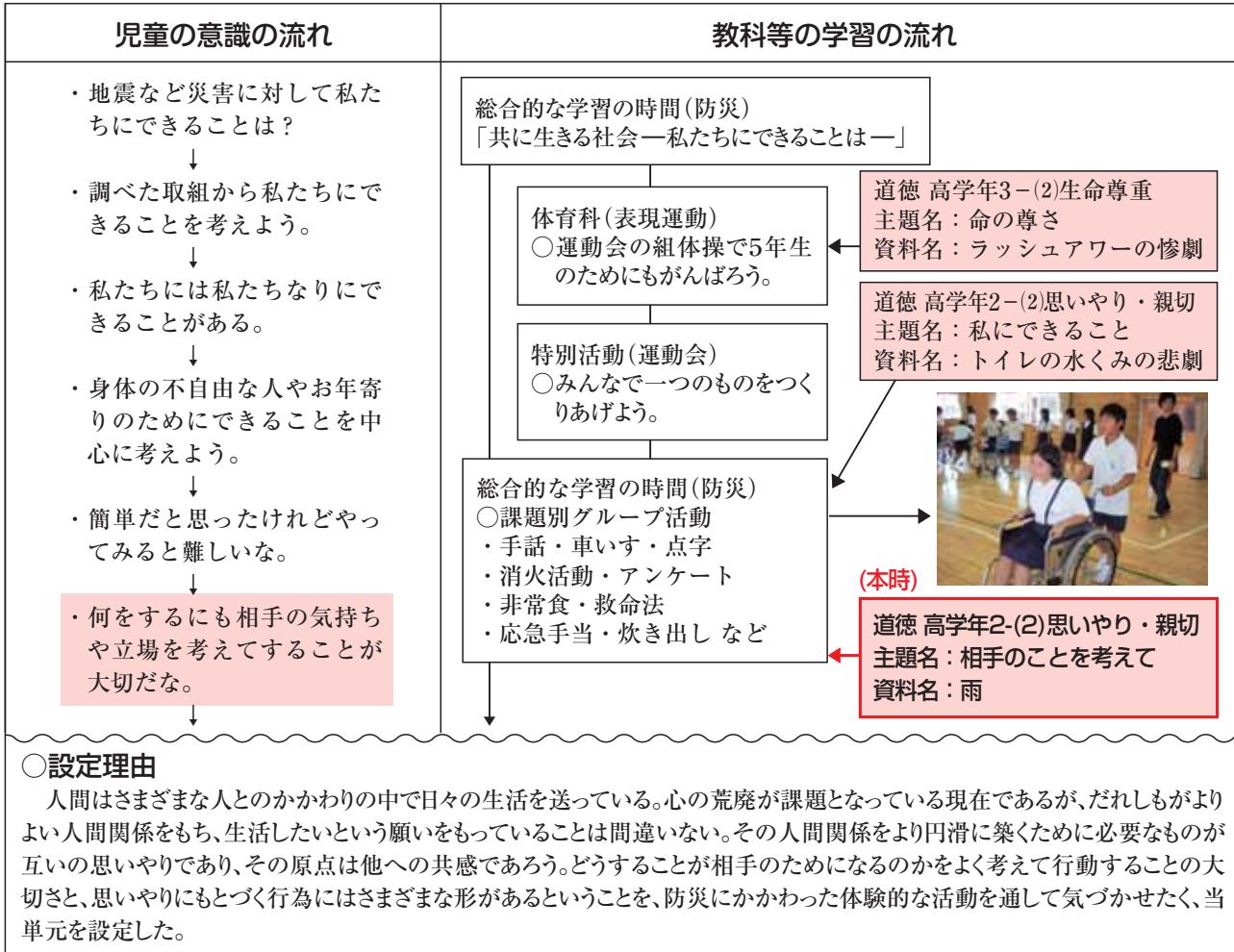
⑨ 体験活動と関連した指導の工夫

～車いす体験と関連させた学習～(第6学年)

広川町立広小学校

○ねらい 自分とは違った人々の立場や気持ちを考え行動し、共によりよいつながりをつくっていこうとする気持ちを育てる。

○全体構想



○設定理由

人間はさまざまな人とのかかわりの中で日々の生活を送っている。心の荒廃が課題となっている現在であるが、だれしもがよりよい人間関係をもち、生活したいという願いをもっていることは間違いない。その人間関係をより円滑に築くために必要なものが互いの思いやりであり、その原点は他への共感であろう。どうすることが相手のためになるのかをよく考えて行動することの大切さと、思いやりにもとづく行為にはさまざまな形があるということを、防災にかかわった体験的な活動を通して気づかせたく、当単元を設定した。

○本時のねらい 相手の立場や気持ちを考え、思いやりの心をもち親切にしようとする心情を育てる。

○展開

	学習活動(主な発問や児童の意識)	指導の工夫・留意点
導入	<p>1 車いす体験について話し合う。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px 10px; margin-left: 10px;">工夫1</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすの用意をして体験を想起させ、資料へと導く。
展開	<p>2 資料「雨」を読み、話し合う。</p> <p>○この詩からどんな情景が想像できますか。</p> <p>○星野さんの後ろについていく女の子は、心の中でどんなことをつぶやいたでしょう。</p> <p>・車いすごと転ばないかな。声をかけようかな。</p> <p>・押してあげたいけど雨だからうまくいくかな。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 10px;"> <p>車いす体験をしていても迷うのに、していない女の子だったら、「何かしてあげたい。何をしたらいいのだろう。」と余計に迷う。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・著書(詩画集)を提示し、作者を紹介する。 ・星野さんのことを心配する女の子の気持ちと葛藤する気持ち(何かをしてあげたい⇒できない)に共感させたい。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>



○工夫の実際

工夫1 体験活動を想起させる

- ・体験活動を全員で行ったからといって、子どもたちが同じように感じているわけではない。この点を考え、事前に子どもたちの感想ノートに目を通した。特に本時の場合は、「体験したけれど、実際の場でできるかな。」と考えた子どもの思いを生かしたいと考えた。授業の導入では車いすを提示するとともに、車いす体験のときの思いを出させた。

工夫2 自分の体験を結びつけて考えさせる

- ・女の子の気持ちを、車いす体験時に思ったことをもとに考えられるような発問や指示をし、資料中の女の子の気持ちに共感させるようにした。

工夫3 今までの体験に目を向けさせ、その意味に気づかせる

- ・資料中の女の子や星野さんの心づかい（目に見えない行為だが、お互いの立場への思いやりに気づき、喜び合えること）が、自分たちの生活の中にもあることに気づかせるために、「資料をもとに、自分たちの生活を振り返る」展開後半部分を大切にし、さらに終末において運動会の組体操をテーマにした児童の詩を紹介した。

《授業後のA子の道徳ノートから》

私も女の子と同じことがたくさんある。車いす体験をしたけれど、町で会う車いすの人を見て「声をかけてあげようかな。」「段差があるところ、うまくいくかな。」と思うけど、声をかけられない。でも、何もできないけど、気持ちだけでもいいんだなと思った。気持ちがあったらいつかできると思う。(中略)この詩の水たまりには、きっと雨上がりの青空が映っていたんだろうと思う。

○実践を終えて

- ・車いす体験時に感じたことを思い出し、女の子の気持ちに共感しながら話合いを進めることができた。
 - ・展開後半部では、「僕が熱を出したとき、お母さんが薬を買いに行ってくれたり一生懸命看病してくれたりした。お父さんは、何もしてくれなかつたけれど治ったとき、『良かったな。』と言ってくれた。」や、「運動会、お父さんは仕事で来られなかつたけれど、仕事をしながらも応援してくれていたんじゃないかなとお母さんが話してくれた。」等、生活を振り返ることができた。子どもたちに、友だち同士のことでもそういう思いやりがあることに気づかせるため、終末において「組体操（運動会）のピラミッド」のときの下の段で支えている子の最上段の子どもへの思いを書いた詩を紹介した。
 - ・体験活動と「道徳の時間」を結びつけることは、体験時での子どもの思いを深化させたり、確認したりすることである。本時でもこのことを考慮し、資料選択と授業の進め方を工夫した。

⑩ 教科等の関連による授業づくりの工夫

～話し合い活動と一つの教材を軸に1日の授業が流れる道徳学習～(第3学年)

上富田町立上富田中学校

○ねらい データや資料によって導き高められた問題意識が、情熱をもって働く人々の生き方に触発されて、積極的に社会に貢献しようとする態度を育てる。

○全体構想

問題意識の流れ	教科等の学習の流れ
<ul style="list-style-type: none"> ・南の島が温暖化で沈んでしまう、大変だ。 ・熱を遮断できるこの材料はすごい。 ・この材料で優れた省エネ冷蔵庫ができた。 <p>・断熱材の開発にこんな苦労と工夫があったとは。情熱をもって働くのはすばらしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今と未来に、私たちにできることは? ・地球温暖化抑制に貢献したい。貢献しようよ。 	<p>1時【社会科】地球温暖化に関する数値資料から問題意識を喚起する。</p> <p>2時【理科】断熱効果について実際の比較実験から理解する。</p> <p>3時【家庭科】文献資料で、冷蔵庫の電力消費削減の工夫を理解する。</p> <p>4時 【道徳の時間】 (本時)</p> <p>道徳的価値を焦点化していく。教科学習のデータや資料に基づく問題意識と解決指向が、密度の濃い道徳的思考を生む。道徳学習の要として本時を機能させて、社会の未来や夢に希望を持ち、その実現に貢献しようとする意欲や態度を高める。</p> <p>5時・6時 【総合的な学習の時間】</p> <p>前時の意識の高まりのもと根拠や理由を検討する話し合い活動で、温暖化抑制の考えを共有する。</p>

○設定理由

6月5日の世界環境デーに関連させ、「地球温暖化、私たちのとるべき態度とは」を主題に働くことや社会貢献に焦点化していく。複数指導者により総合単元的に各授業を関連づけ、話し合い活動を基調にして1日で学習する「ワンディープラン」としてインパクトを与え、生徒が環境問題に積極的にかかわる態度や実践力を身につけることができるよう、当単元を設定した。

○本時のねらい 教科の学びを関連づけ、省エネルギーを実現した(優れた断熱材の開発)開発者の努力から、働くことの意義について、話し合いによって考えを深め、社会に貢献する(温暖化抑制に寄与する)態度を育てる。

○主題名 「働くことと社会貢献の意義」 中学校4-(5)勤労・奉仕・公共の福祉

○資料 「モノづくりを支える人たちの物語 2.究極の断熱材を開発せよ!」(DVD12分)

(出典)『シティズンシップ教育・キャリア教育・環境教育DVD教材／指導書』渡邊満監修/「モノづくりを支える人たちの物語」制作プロジェクト、協力:松下電器産業株式会社、編集:東京書籍、非売品

○展開

	学習活動(主な発問と生徒の意識)	指導の工夫・留意点
導入	1 これまで(1時～3時)の学習内容を確認する。	○話題が断熱材に焦点化されていることを確認する。
展開	<p>2 DVDを視聴して、感想を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫のしくみ、断熱材の開発の努力とその効果がわかった。 ・理科の実験からこの断熱材の性能がよくわかる。 ・実験に教材を提供してくれた企業に感謝したい。 	<p>工夫3</p>  <p>[視聴後、断熱材を提示してストーリーを確認する]</p>

展開

3 断熱材を開発した人たちに学ぶ点について、班で話し合い、出てきた内容を全体で発表し、感想を述べ合う。

工夫4

・情熱をもって仕事をしている。やりがいを感じているし、社会に貢献している。
・この人は、お金儲けのためだけに仕事をしているのではない。



話し合い活動

○工夫の実際

工夫1

「道徳の時間」の資料のクライマックスシーンと理科の実験教材を重ね合わせる

理科で活用した熱伝導の実験教材が、本資料に出てくる世界最高レベルの断熱材であることを知ることで、自分たちの学習にとって本資料が身近であることを感じ、より資料に興味をもった。



「道徳の時間」の資料(DVDの映像)

理科の実験の様子

《生徒の感想より》

クライマックスシーンで火をかけた鉄板上の氷製の果物のうちメロンだけが溶けにくかったのは、開発した断熱材を敷いていたからです。それは、さっき理科で実験したばかりのあの熱を通しにくい材料と一緒にあって気持ちが高ぶりました。

工夫2

生活に活かす

「道徳の時間」で培った社会貢献への意欲の高まりのもとで、総合的な学習の時間で「自分に何ができるのか」を考え、社会に参画する具体的な態度を共有できた。

工夫3

1つの教材を軸に授業は流れ、掲示資料は次時に残していく

断熱材を軸に授業展開が進む。活用したデータや資料を掲示物として残していくことは、学習の流れを視覚的に再確認でき、より厚みのある学習を展開できた。

工夫4

話し合い活動の充実

4人一組で構成。ワークシートに記入し、必ず理由をつけて説明しながら話し合った。
(全体発表でも意見に理由をつける。)



この1枚の断熱材を教材にして
プラン全体をつなげていく

《生徒の感想より》

潮が満ちて陸が沈んでいく南の島は深刻だ。「そこに住んでいたら」と考えると怖くなる。実験で使った断熱材を開発したあの人はすごい。決してあきらめない。仕事に誇りをもっている。環境に優しい未来の電化製品のアイデアを話し合ったけど、実現して、ちょっとでも環境がよくなっている。私も自分に出来ること、例えばクーラーをあまり使わないとか、小さなことでもコツコツと続けていきたい。それに世界の人々と協力しなければ。温暖化の授業を受けて、南の島を身近に感じている。

○実践を終えて

- ・教科学習での道徳教育的側面を「道徳の時間」で補充・深化・統合し、「働くことや社会貢献の意義」に焦点化させた。話し合い活動を基調にした共同の学びは、学習者の響き合いを促進し、他者とかかわりながら前向きに生きる意欲や態度を高めることができたと感じる。このことは、社会貢献力や自己実現力を高め、社会に主体的に参画する態度を育成する上でも効果的であると思われる。
- ・教科等を関連させ、複数の指導者による学習プログラムを作成することは、指導者たちの協働に基づく授業づくりを促進させ、多様で効果的な道徳学習を生み出すことにつながった。

2 家庭や地域と共にすすめる道徳教育～開かれた「道徳教育」をめざして～

「道徳の時間」の授業公開、地域との協同活動による連携事例



保護者や地域の方に道徳教育について理解してもらい、子どもの心の成長について共に考え、共に取り組む良い機会となります。



多様な人とかかわりながら、よりよい地域をめざした実践活動などを行うことで、道徳的実践力や意欲の一層の高まりが期待できます。



通信(学校だより・学級だより)等による家庭との連携事例

《「学校だより」による啓発や紹介》

学校では、道徳の授業を中心に、学校生活全体で道徳教育を行っていますが、子どもたちの健やかな心の成長のためには、家庭と学校の連携が欠かせません。(中略)

道徳の時間では、副読本「生きる力」を使うことが多いですが、プリントに印刷したものを使うこともあります。それぞれの話は、大人にとっても大切な心のあり方を考えさせてくれる内容です。ぜひご家庭でも読んでいただき、子どもさんと話をしてほしいと思います。

《学級だより》
道徳の学習の様子を紹介

《保護者からの感想》(「神父さまはマスクマン」の学習について)

読み終わった時には、涙が出てきました。自分の人生をかけてまで守る人がいる人は、こんなに強くなれるんですね。人の為に、何かできる人はすごいと思いました。そして、今一度、自分が母親として、子どもに何をしてあげられるか、またしてあげられないかを見直すことができました。

《奥澤 委員(社会教育委員)》

どんな些細なことでも、日常全てが道徳です。物事に心を傾け、「共に楽しみ・共に学ぶ」気持ちで、学校・家庭・地域がお互いに歩み寄り、語り合う場をもちたいですね。

《柚瀬 委員((県)PTA 連合会役員)》

道徳教育を通して人として心豊かに生きていく為にどうしたらいいのか、子どもと一緒に考える時間がもてたらいいなと感じます。是非、道徳の授業を公開してほしいです。

道徳の時間を楽しもう

道徳の時間と言えば、固い、暗い、古いといったイメージはありませんか。

道徳の時間を楽しんでいるクラスに行くと、「『間違い』がない。」「いろんな考え方に出会える。」「そんな考え方もあるんだ。」「先生、また道徳の勉強しようよ。」などと、真剣で、希望がいっぱいのイメージがあります。

どうすれば、そんな道徳の時間ができるのでしょうか。

①道徳の時間は、外に表れた行為・行動に焦点を当てるのではなく、その基にある思い、感じ方、考えに焦点を当てるのです。例えば、「主人公は、どうすべきですか?」ではなく、「主人公は、どんな思いから、そうしたいと思ったのでしょうか?」を考え合うのです。

②道徳の時間は、「なるほど」と、お互いを認め合うことが大切です。正解・不正解はないのです。しかし、みんなで立ち止まって考え合いたい思い、感じ方、考えはあります。それは、より広く、より深い思い、感じ方、考えです。

③道徳の時間は、教え込むのではなく、子どもの豊かな思い、感じ方、考えを引き出すのです。みんなで考え合う中で、自分との共通点や違いが明らかになり、新たな思い、感じ方、考えが、自分のものとして広がり、深められるのです。

これらのことの実現するためには、「子どもは、どう感じ、どう考えるだろうか。」と、子どもの側に立った思考がとても大切です。

「どうせ自分はダメだ。」「こんなことを言ったらバカにされる。」「大人もちゃんとしていないじゃない。」などと、子どもたちは否定的、悲観的になります。

一人一人の子どもが、自分も他者も大切にし、人の生き方に憧れをもち、こんな生き方をしたいと思いを高められるよう、道徳の時間や道徳教育を大切にしていきましょう。そのためにも、子ども以上に、教職員や保護者、地域の皆さんが、道徳の時間を楽しんでくださることが大切です。

本冊子が、その一助になることを期待しています。

和歌山県道徳教育推進協議会
副会長 島 恒生

平成19年度和歌山県道徳教育推進協議会委員(五十音順 敬称略)

(役職名は平成20年3月現在)

梅本 昭二三	上富田町立上富田中学校長	福田 正幸	広川町立広小学校長
奥澤 典子	紀の川市社会教育委員	福田 光男	和歌山市立鳴滝小学校長
坂本 善光	古座川町立明神中学校長	前田 良藏	紀の川市教育委員会教育長
島 恒生	畿央大学教育学部准教授	宮尾 英作	和歌山大学教育学部附属中学校副校長
田中 英明	和歌山市立貴志小学校長	柚瀬 真規子	和歌山県PTA連合会副会長(母親代表委員長)
田村 千恵	和歌山市立岡崎小学校長	西原 孝幸	和歌山県教育庁学校教育局小中学校課長
橋戸 常年	紀美野町立野上中学校長		



心に響く道徳 心に届く道徳

和歌山県道徳教育推進協議会